

高校生の就職率は 92.8%、2 年連続で 9 割超！

- 41 道府県でアップ、沖縄県で改善が顕著 -

旺文社 教育情報センター 平成 18 年 5 月

5 月 12 日に発表された、文部科学省の就職状況に関する調査によると、今春の高校卒業者のうち、就職を希望する者の就職率は、平成 18 年 3 月末現在で **92.8%**（前年同期比で 1.6 ポイントアップ）と、2 年連続で 9 割を超えたことが判明した。13 年に過去最低を記録して以来 4 年連続でアップし、9 年(92.9%)の水準にまで回復した。

同省初等中等教育局児童生徒課が行った本調査は、国立については国立大学、公立については各都道府県教育委員会、私立については各都道府県知事部局を通じ、全高校を対象に行った“悉皆調査”である。以下、その概要を紹介する。

今回判明した就職率（就職者の就職希望者に対する割合）は 92.8%で、16 年度同期の 91.2%を 1.6 ポイント上回り、2 年連続で 9 割を超えた。経営の改善傾向に加え、「団塊の世代」が大量定年退職する“2007 年問題”を直前に控え、企業の採用意欲が高まったものとみられる。なお、次ページに高校卒業者の就職状況の推移（過去 10 年間）を掲載した。

高校卒業者約 117.5 万人のうち、就職希望者は約 22.4 万人。このうち就職決定者は約 20.8 万人、就職に至らなかった者（未就職卒業者）は約 1.6 万人（男子約 6 千人、女子約 1 万人）。ちなみに、16 年度同期の未就職卒業者は約 2 万人（男子約 8 千人、女子約 1.2 万人）であった。就職率を男女別に見ると、男子は 95.0%、女子は 90.0%で、16 年度同期に比べて男女ともに 1.6 ポイント上回った。

学科別に見ると「工業」(97.3%)、「水産」(95.3%)、「情報」(94.7%)、「商業」(94.4%)、「農業」(94.2%)、「福祉」(93.2%)、「総合学科」(92.3%)、「家庭」(91.3%)、「普通」(89.1%)、「看護」(72.8%)の順となっている。情報と福祉は今回の調査から新設された項目。看護が大幅ダウン（18.7 ポイント低下）し、総合学科が同率であった以外は、各学科とも 16 年度同期を上回った。

都道府県別に見ると、41 道府県で就職率がアップ、6 都県でダウンした。就職率が高いのは、福島県（98.7%）・山口県（97.6%）・秋田県（97.4%）・福井県（97.3%）・富山県（97.1%）...の順となっている。一方、就職率が低いのは、北海道（81.3%）・沖縄県（83.9%）・大阪府（88.4%）・高知県（88.5%）・青森県（89.1%）...の順となっている。

また、特に就職率がアップしたベスト 3 は、沖縄県（6.4 ポイント上昇）、青森県（5.7 ポイント上昇）、高知県（5.2 ポイント上昇）...であった。沖縄県では、全日制の高校生全員にインターンシップを経験させるなど、キャリア教育への注力が功を奏したといえる。一方で、最も就職率がダウンしたのは東京都（94.0%：0.7 ポイント低下）であった。

